

# むしの冬越しガイドシート①

小山田緑地の冬の昆虫たちの暮らしを紹介しています。寒さをしのいだり、野鳥などの天敵から逃れたりするため、冬の自然環境に色や形を似せるなど、生き延びるためのさまざまな生活スタイルを楽しむことができます。冬の自然散策に、ぜひお役立てください！



**キタキチョウ(成虫越冬)**  
小山田緑地で確認されているモンシロチョウの仲間の中で、唯一、成長の姿で冬を越す。はねのうら側に黒い斑点がある。



**ウラギンシジミ(成虫越冬)**  
冬は常緑樹の葉の裏などに身を隠す。冬から春先はメスをよくみかけ、はねのうら側と表側の模様が白銀色。オスは表側が橙色。



**ムラサキシジミ(成虫越冬)**  
常緑樹の葉の裏や、地面の落葉の中で冬を越す。常緑樹の葉の上で、美しい青紫色のはねを開き、体を温めていることがある。



**ムラサキツバメ(成虫越冬)**  
冬は樹木の葉の裏側に集団で固まる。町田市市内では、冬の間ほとんど死滅してしまう。オスのはねの表面全体が暗い紫色。



**テングチョウ(成虫越冬)**  
やや小さなタテハチョウで、はねを閉じると枯葉によく似ている。顔が“天狗の鼻”のように前に突き出ているのが名前の由来。



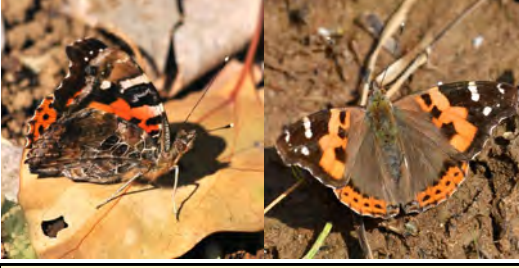
**キタテハ(成虫越冬)**  
田んぼ横の資材置場の物かけなどに身を隠し、日差しが暖かいと冬でも動き出す。後はねのうら側に白い「C」の模様がみえる。



**ルリタテハ(成虫越冬)**  
黒いはねに水色のラインがよく目立つタテハチョウの仲間。春が近づくと、雑木林近くの倒木や木道、石垣などに止まっている。



**ヒオドシチョウ(成虫越冬)**  
年1回初夏に発生した成虫が、秋冬を経て春が近づくと、木々に囲まれた園路などでみられる。倒木や擬木の上によく止まっている。



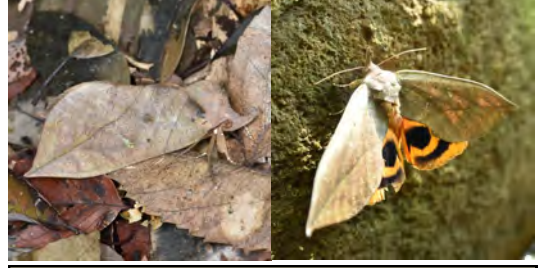
**アカタテハ(成虫越冬)**  
秋に多く発生し、越冬する成虫ははねがボロボロになっていることが多い。森の中や、近くの草地や田んぼでみかける。



**ヒメアカタテハ(成虫、幼虫越冬)**  
アカタテハに姿がよく似ていて、人家周辺の畑や空き地など、明るい環境を好む。成虫以外に、幼虫の姿でも冬を越す。



**クロコノマチョウ(成虫越冬)**  
アゲハぐらゐの大きさと、はねが枯葉にそっくり。静止中にはねを開くことがほとんどない。雑木林や竹林の枯葉の中で冬を越す。



**アケビコノハ(成虫越冬)**  
はねを閉じた時は、色も形も枯葉にそっくりながの仲間。はねを開くと、後はねに野鳥が嫌がりそうな大きな目玉模様が現れる。

# むしの冬越しガイドシート②

昆虫は「成虫」、「蛹」、「幼虫」、「卵」といった、4つの中のいずれかの姿で冬を乗り越えます。さまざまな姿で冬を乗り越えることで、成虫の繁殖時期に違いが生じ、自然界における昆虫同士の食べものや、生活場所をめぐる争いを避けるメリットがあると考えられます。



**ホソミオツネトンボ(成虫越冬)**  
冬の間は、樹木の枯枝や枯草にしがみついてじっとしている。越冬後に成熟すると、体色は茶色から水色に変化する。



**ホソミイトンボ(成虫越冬)**  
冬は水辺を離れ、日差しがよく当たる林縁や草原などで活動している。繁殖期が近づくと、体色がさわやかな水色に変化する。



**ツチイナゴ(成虫越冬)**  
バッタの間ではめずらしく、成虫の姿で越冬する(バッタの多くは卵で越冬)。陽だまりなど暖かい場所を求めて冬も移動する。



**クビキリギス(成虫越冬)**  
枯れた草やぶの隙間などで越冬する。幼体が湿った環境で育つと、成虫の体色は緑となり、乾燥した環境ではうすい茶色になる。



**ジャコウアゲハ(蛹越冬)**  
小山田緑地では年3~4回ほど発生する。食草のウマノスズクサの生育場所の近くにある木柵や建物の壁などで蛹となり冬を越す。



**オオムラサキ(幼虫越冬)**  
幼虫は冬の間、エノキの根元に降り積もった落葉の隙間に身を隠す。頭には2本ツノがあり、背中にブツブツがついている。



**ゴマダラチョウ(幼虫越冬)**  
幼虫はオオムラサキと比べると、体型がずんぐりしていて、背中のブツブツの数が異なる。エノキの根元の落葉の中で冬を越す。



**アカスジキンカメムシ(幼虫越冬)**  
幼虫は落葉の裏などに隠れていて、背中には“にっこり笑顔”のような模様がある。カメムシは脱皮を繰り返して成虫へと変化する。



**オオカマキリ(卵越冬)**  
丸っこい卵鞘(らんしょう)はスポンジ状になっていて、その中には約200個程度の卵が入っている。木の枝などに産みつけられる。



**コカマキリ(卵越冬)**  
卵鞘はオオカマキリと比べると、とても小さくイモムシのような形をしている。樹皮や石垣の隙間など、狭い場所に産みつけられる。



**ハラビロカマキリ(卵越冬)**  
成虫は樹上で生活していることが多いので、樹木の枝や幹で卵鞘をみかける。卵鞘は下側に突き出た形をしていて、ツヤがある。



**ムネアカハラビロカマキリ(卵越冬)**  
都内でも分布を広げている外来種のカマキリで、卵鞘は白っぽい。\*卵や成虫をみつけたらサービスセンターにご連絡ください。